

〔7〕 中学部の生徒がどう変容しつつあるか。

生活単元学習、運動、健康管理の三つの立場からのからだづくりを背景に、個に応じた適切な取り組みによって、子どもたちがどう変わりつつあるか、事前調査との比較を参考に検討してみたい。

(1) MEPA及びからだの輪郭表による変容 (H. 1. 10)

右の表6は、p.53に示したMEPAとからだの輪郭表で、到達率が10～15%上昇した項目の一部である。運動や手指機能、道具の使用等、わずかずつではあるが向上の見られる項目が見られる。全般的には、かなり低かった言語・社会性の向上がみられ、対人関係の広がりにもかかわらず明らかな見通しを感じる。

- 両足とび
- 片足ケンケン
- はずむボールをつかまえる
- 点や線にそって紙を切る
- ことばの指示に従って動く
- じゃんけんが分かる
- 友達と主張したり妥協したりする
- ファスナーを合わせて止める
- ガスに点火する
- マッチで火をつける
- 100メートルを力いっぱい走る
- くわ、のこぎりの使用に興味を持つ
- ひもをほどく
- ランニング、スキップをする
- 小さな物をはしでつまむ
- 自転車に乗る
- 右、左がわかる
- りんごの皮をむく
- 袖口のボタンを止める
- 庖丁で小さく切る。

(2) 意欲・態度及び段階別教育内容による変容 (H. 1. 10)

右の表7は、p.54に示した意欲・態度に関する調査を10月に再実施し、特に変わったと思われる姿を列記したものの一部である。まだまだ不確実ではあるが、我々のめざしている方向に少しずつ近づいている姿だと思う。

これ等の姿勢と身体諸機能の向上の相乗作用によって、段階別教育内容の内容にもp.47の図1の4名のグラフに■で示すように少しずつ広がりを見せている。

- 自分だけの楽しみの他に、行事等を楽しみにし、話題にする。
- 大きな集団の中でも、常動行動や大きな声が減少した。
- 常に受け身の子だったが自分から「～せんといけん」と言う。
- 誉められなくても一人で黙々とやりとげようとする姿勢。
- 担任のはげましを自分の言葉におきかえて、自分に言いかけがまんする姿勢、自分ではげまし立ち直る姿勢ができた。
- 率先してキャプテンになり、がんばって組をまとめる。
- からだを動かすことが好きになり、その事の方が熱中・集中。
- 行事予定表、時間割、時計等を使った見通しのある発言。
- 言われなくても友達を援助したり協力したりする姿勢。
- 一つの事や物に集中していく姿勢（行事、作業、ボール…）
- 家庭でも話題にしたり準備したりする思い。
- すすんで発言しようとする姿勢。

〔8〕 本年度の取り組みの反省と今後の課題

昨年の研究を継承しながら、遊び的労働を重視した生活単元学習にからだづくりの場を広げて実践した本年度の取り組みは、楽しんで活動する子どもの姿から、からだづくり、特に実践的なからだの使い方や意欲面で大切な取り組みであったと思う。しかし、反省かふまえた課題も多くある。

- つけたい力をもう少し焦点化し、運動や養訓と生活単元学習の有機的な関わり合いの中で、より確かな力として定着させるための内容分析、組み立て、積み上げのある年間計画の工夫。
- 社会化にもっと目を向けた遊び的労働（校外学習等を核にした）を組み立てる工夫。
- 能力差に応じた指導の工夫。特に能力の低い生徒を生かし伸ばせる一教材複数課題設定の工夫。
- 家庭との連携を単に言葉のやりとりですますのではなく、場や物を共有したり、保護者を巻き込んだ楽しい学校生活を組み立てたりする等、より積極的な連携にしていく工夫等々である。

以上の反省点や課題にしっかり目を向けながら、生活単元学習（作業学習）、運動、健康管理の三つの面から、子どもたちに生きて働く力のつくからだづくりをめざして更に取り組んでいきたい。